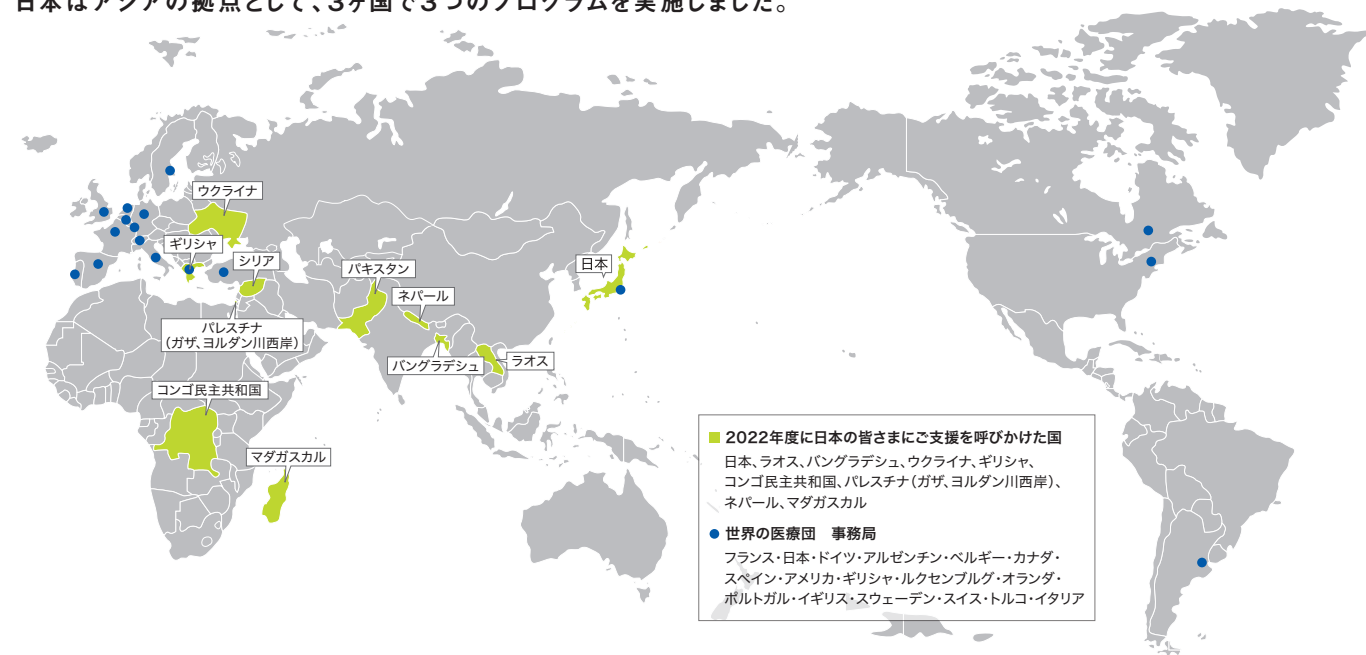


世界の医療団は17ヶ国に活動拠点があり、70以上の国や地域でプログラムを実施しています。
日本はアジアの拠点として、3ヶ国で3つのプログラムを実施しました。



■ 2022年度に日本の皆さまにご支援を呼びかけた国
日本、ラオス、バングラデシュ、ウクライナ、ギリシャ、
コンゴ民主共和国、パレスチナ（ガザ、ヨルダン川西岸）、
ネパール、マダガスカル

● 世界の医療団 事務局
フランス・日本・ドイツ・アルゼンチン・ベルギー・カナダ・
スペイン・アメリカ・ギリシャ・ルクセンブルグ・オランダ・
ポルトガル・イギリス・スウェーデン・スイス・トルコ・イタリア



世界の医療団

2022年度 年次報告書

2022年1月1日～12月31日

「誰もが治療を受けられる未来を」

“POUR UN MONDE OÙ CHACUN PEUT ÊTRE SOIGNÉ”

● 日本事務局 理事

(五十音順) ※2023年3月末時点

石原 恵	看護師
磯村 尚徳	外交評論家
ガエル・オスタン(理事長)	PMC株式会社代表取締役
大浦 紀彦	形成外科医
佐藤 直	ワーブジャパン株式会社代表取締役
瀬古 篤子	株式会社ヴィジョン・エイ代表取締役
バトリック・ダビッド(副理事長)	麻酔科医
日野 慶子	東京都立多摩総合医療センター 精神神経科医長
見山 謙一郎	(株)フィールド・デザイン・ネットワークス 代表取締役CEO
森川 すいめい	精神科医
横森 佳世	東京農工大学グローバル教育院 准教授

● 事務局スタッフ

(五十音順) ※2023年3月末時点

安達 洋子	ファンドレイザー(ドナーリレーション)
阿部 さやか	ファンドレイザー(ドナーリレーション)
石井 夕美	総務・経理マネージャー
小川 亜紀	プロジェクト・コーディネーター(ラオス事業)
カンボン・リー・チャール・スック	プロジェクト・コーディネーター(ラオス事業)
木田 晶子	メディカル・コーディネーター(ロヒンギャ事業)
サルワル・カマル	現地運転手(ロヒンギャ事業)
シボン・シタボン・サイ	プロジェクト・マネージャー、医療専門家(ラオス事業)
セング・ソスバン	ハウスキーパー、セキュリティオフィサー(ラオス事業)
武石 晶子	プロジェクト・コーディネーター(ハウジングファースト東京プロジェクト)
タワット・ザイ・ボム・ヴォン・サイ	プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
ティックター・カム・ヴン・フェー・グ	会計・アドミンアシスタント、プロジェクトアシスタント(ラオス事業)
ティンカム・マニボン・グ	現地運転手(ラオス事業)
寺村 滋	マーケティング・マネージャー
トゥラバン・クンカム・ディー	プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
富岡 亜矢子	ファンドレイザー(法人パートナー、イベント担当)
中嶋 秀昭	プロジェクト・コーディネーター(ロヒンギャ事業)
ブントム・タマ・チャー・ン	会計・アドミンオフィサー(ラオス事業)
ベン・コン・ソク・ヴァン・サイ	現地運転手、プロジェクトオフィサー(ラオス事業)
松井 智美	ファンドレイザー(個人支援者担当)
米良 彰子	事務局長

● 沿革

1995年	阪神大震災の発生を受け、フランスのNGOのメドゥサン・デュ・モンド(Médecins du Monde)が神戸で活動
1996年	「スマイル作戦」に座談医師が日本人として初参加
2000年	特定非営利活動法人(NPO)の設立認証を獲得。登録名を「メドゥサン・デュ・モンド ジャパン」とする
2007年	認定特定非営利活動法人の認定を受ける。翌年以降の税法上の優遇措置(寄付金控除等)の対象となる。
2010年	初めての国内プロジェクトとして、東京プロジェクト(現・ハウジングファースト東京プロジェクト)を開始
2011年	東日本大震災発生を受けて、岩手県大槌町へ。団体として初めての国内緊急支援を行う
2012年	ラオスで小児医療強化プロジェクトを開始。世界の医療団日本として初めての単独の海外事業
2017年	ロヒンギャ緊急医療支援を開始

2022年度年次報告書

発行人	ガエル・オスタン
発行	2023年4月
発行所	世界の医療団(認定NPO法人)
特定非営利活動法人	メドゥサン・デュ・モンド ジャパン Médecins du Monde Japan

〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F
TEL: 03-3585-6436 FAX: 03-3560-8073
E-mail: info@mdm.or.jp
ホームページ: <https://www.mdm.or.jp>
Facebook: <https://www.facebook.com/mdmjapan>
Twitter: https://twitter.com/mdm_jp



© Chihito Masuho

バングラデシュ南東部コックスバザール県のホストコミュニティの人々に保健衛生の啓発活動をする様子



支援者の皆さまへ

日頃より世界の医療団の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2022年は新型コロナウイルス感染症による影響が続かなか、2月末、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり、世界に衝撃を与えました。爆弾の音とともに突如として日常を奪われました。2015年からすでに現地に介入していた世界の医療団は、直ちに拠点を安全な場所に移すとともに、侵攻の翌日には支援を開始しました。今も命を救う活動は休むことなく続いています。

ウクライナ侵攻が世界に与えた影響はウクライナ国内にとどまりません。この侵攻によりエネルギーや原材料価格が高騰し、世界規模のインフレが起きています。このようなときに最も影響を受けるのは社会的に弱い立場にいる人々です。東京・池袋で実施している炊き出し・医療相談会には、リーマンショック時よりも多くの人々が訪れ、一人ひとりが必要な支援につながるよう日々奔走しました。その一方、昨年は炊き出し・医療相談会の現場で活動を支えてくださるボランティアがこれまで以上に増え、社会情勢や私たちを取り巻く問題への関心が高まっていることがうかがえ、非常に心強い思いがしました。

今も世界では、トルコ・シリアでの大規模な地震、アフリカにおける気候変動による干ばつ、長期化するロヒンギャ難民危機など、必要な医療につながっていない人々がたくさんいます。世界の医療団は、「すべての人が必要ときに、適切な費用で医療を受けられる状態を目指す」というユニバーサルヘルスカバレッジの考えとともに、すべての人が保健医療サービスを受ける権利を享受できる世界の実現に向けて、日々の活動を積み重ねてまいります。2023年も皆さまの引き続きのご支援をお願いいたします。

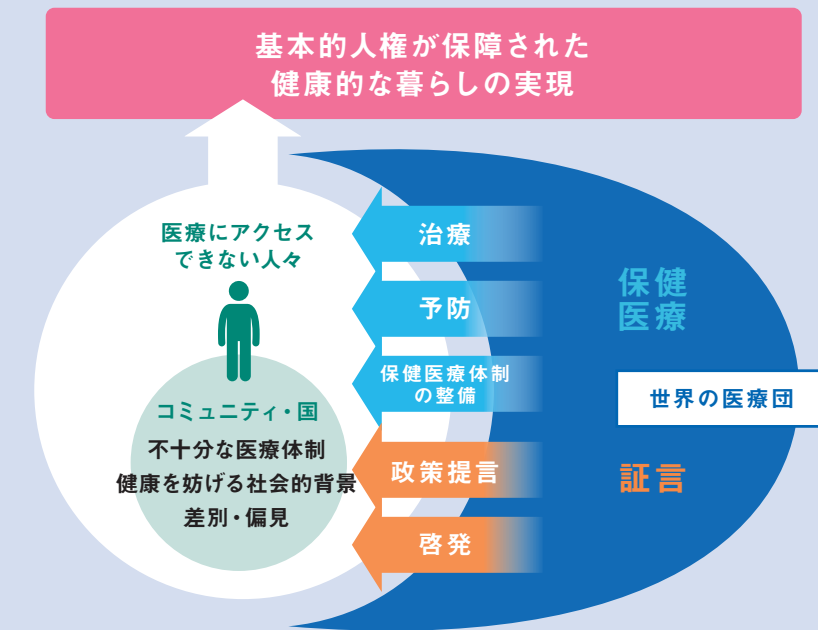
世界の医療団 日本
理事長 ガエル・オスタン



紛争、災害、貧困などで必要な医療を
途絶えさせないために—

世界の医療団の活動

誰もが自ら持つ権利として保健医療サービスへアクセスでき、
心身ともに健康的な暮らしが実現する世界をつくります



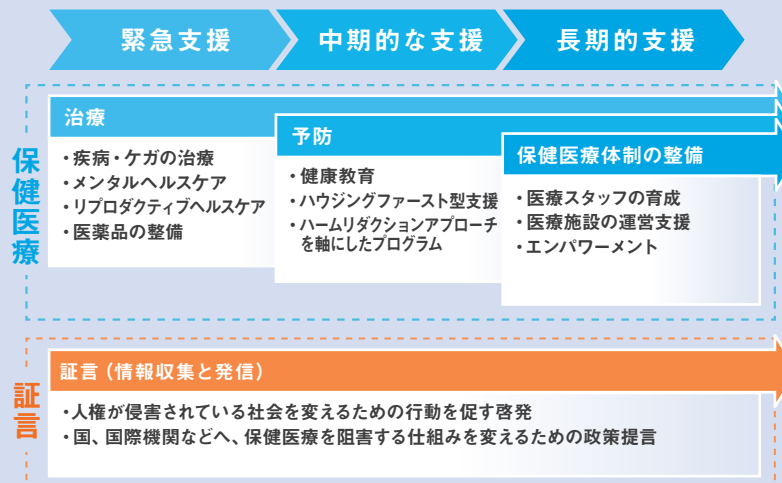
世界の医療団の使命

保健医療

世界中どこであっても、誰であっても、公平で適切な保健医療サービスへのアクセスは生まれながらに有する権利です。国籍、人種、民族、思想、宗教などのあらゆる壁を越え、心身の治療に加え、持続して健康な状態を保つための予防や健康知識の普及、公的な医療基盤の構築などを中心に、保健医療・公衆衛生分野において活動しています。

証言

必要な保健医療サービスにアクセスできない原因、保健医療支援を実施する上で障壁となるもの、人権を侵害する現状や事実について証言します。課題に直面する人びとの声や現状を伝える素材を集め、多くの人々に向けて情報発信と啓発を行い、課題の解決のために行動を起こすことを促します。また、保健医療へのアクセスを阻む状況を根本的に改善するため、政策提言を行い、仕組みを変えるよう働きかけます。



目標実現までのロードマップ

紛争、自然災害や感染症などの危機的状況時に医療チームを派遣し、現地の医療機関と連携しながら、迅速かつ効果的に医療を提供。また、健康を回復した人びとがその状態が持続できるよう、健康知識の普及、衛生的な環境づくりなど予防活動を行います。さらに、医療スタッフの育成や医療施設の運営支援など持続可能な医療システムの構築を目指します。活動にあたって、難民や移民、性的マイノリティ、女性や子どもなど、社会的に弱い立場にある人々が差別や偏見にさらされることなく医療にアクセスできるよう支援します。当事者へのエンパワーメントに加え、コミュニティ、社会に向けて、多様性を尊重し、それぞれの権利を認め合うよう啓発。現地コミュニティの人びとが主体となって政策提言を行えるようサポートします。

活動理念

社会正義 自立支援 独立性 コミットメント バランス

医療サービスへの平等なアクセス、基本的人権の尊重、連帯意識の共有を希求します。
すべての人びとが自己の健康に対する当事者となり、自らの権利を行使できるよう支援します。
すべての政治、宗教、経済による権力、利害から独立しています。
献身的に、そして高いスキルと専門知識、職業倫理を備えたプロ集団として活動します。
国内外での活動、緊急と中長期プログラム、医療と周辺サービス、官民の資金、それぞれのバランスを尊重します。

医療支援

世界の医療団のネットワークでは、世界各地で紛争や暴力、自然災害、貧困に苦しむ人々の命と健康を守る活動に力を注ぎました。

ウクライナから避難してきた人々への支援（モルドバ）

ギリシャ レスポス島

難民のなかには妊婦や子ども、高齢者、持病を抱えた人も難民キャンプの医療に空白を作らないために

欧州への入り口として70ヶ国以上の国々から難民が集まるレスポス島。2022年1月現在、2,300人を超える難民が身を寄せています。難民キャンプ内は衛生状態が悪く、電気の供給も不安定です。難民がキャンプを出るには公的書類を得る必要がありますが、そのためには弁護士との面会、メディカルチェックなどさまざまな条件をクリアしなければならず、ある程度の期間を難民キャンプで過ごすなければいけません。しかし、ギリシャ保健省による医療サービスは2022年2月に終了。心身のケアを必要とする難民への医療サービスは、世界の医療団をはじめNGOが全面的に担っている状況です。また、新型コロナウイルス感染症の対応として、2021年から引き続きワクチン接種の啓発を行いました。



©Olivier Papagnies - Collectif Humain

パレスチナ自治区 ガザ・ヨルダン川西岸

先の見えない占領と緊迫した状態が絶えず続くなか、人々の不安に寄り添い、こころのケアをより一層強化

イスラエルの軍事占領下に置かれているパレスチナ・ガザ地区とヨルダン川西岸地区。人口の3分の1の人々が極度の貧困状態にあります。ガザ地区内では医療施設や救急車が攻撃の対象となり、十分に機能していないにもかかわらず、外国で治療を受けるために与えられる出国許可の件数は徐々に減少。緊迫した状態が絶えず続くなかで人々は不安や睡眠障害を抱え、子どもは幼児退行、学業の遅れや社会的スキルの発達に影響がみられています。こころのケアを提供できる医療体制がありません。2022年、世界の医療団は、危機が長期化していることを鑑み、これまでも実施してきたこころのケアをより一層強化。紛争や新型コロナウイルスの影響を受けたコミュニティの回復力を高めるため、活動に尽力しました。

5,055人 保健医療の受益者総数
55人 緊急時の対応について研修を受けた医師
16ヶ所 サポートした医療機関

ネパール 医療を軸にした活動で、労働環境と健康の改善を目指す

ネパール最大の都市である首都カトマンズとその周辺の盆地では、近年、急激な人口増加とともに都市化が進む一方で、環境問題が深刻になっています。首都カトマンズでは、毎日1,000トン以上の廃棄物が出ていると言われており、その量は東京23区の約1.7倍。廃棄物が引き起こす問題は、環境だけでなく、それを処理する労働者の健康にも影響を与えていることから、世界の医療団は2018年より、カトマンズで廃棄物処理の労働者の健康を守るプロジェクトを開始。2020年にはインドとの国境の町ネパールガンジにも活動を広げました。廃棄物処理は、労働者にとって賃金を得、生活を支えるための重要な仕事であるため、有害な環境にさらされるに伴うリスクを軽減し、適切で質の高い医療サービスと情報へのアクセスの向上を図ることで、労働環境と健康の改善を目指しています。



©MdM France



9,743件 労働衛生や安全対策の支援および診療の件数
1,087セット 個人防護具（マスク、手袋、帽子、長靴、安全靴、作業着）の配布
6ヶ所 サポートした医療機関

マダガスカル

干ばつによって子どもたちの栄養状態が悪化緊急を要する事態において、移動診療車の機動力が有効な手段に

アフリカ大陸の東、インド洋にある島国、マダガスカルでは、ここ数年、気候変動の影響を受けて雨量が極端に少なく、特に南部では、川は干上がり、土地は痩せ、農作物が育たなくなっています。その結果、100万人以上が水と食料の不足に苦しむ深刻な事態に陥っています。干ばつによる食料価格の高騰に加え、新型コロナウイルスの蔓延で人々の収入は減少、その結果、ますます食料を手に入れることが難しくなりました。影響は特に子どもたちに深刻で、11万人以上が重度の栄養失調の状態にあるといわれています。世界の医療団は移動診療車でアクセスが悪い地域や緊急に治療が必要な人々のもとへ赴き、栄養失調の診療や子どもを対象にした麻疹の予防接種、妊産婦の産前産後の診察、治療が難しい症例の高度医療施設への紹介と医療費の補助などを実施しました。

6,223件 栄養失調の患者を含む診療の件数
6人 研修を受けた医療従事者

コンゴ民主共和国

性暴力によって心身ともに深い傷を負った女性たちに寄り添い、社会での日常生活を取り戻すための多面的なサポートを

アフリカ大陸の中央に位置するコンゴ民主共和国では、豊富な天然資源が火種となり、武装集団の間で利権争いが繰り広げられています。武装集団は女性たちに性暴力を加え、人々に恐怖心を与えることで支配しています。被害にあった女性たちは心身ともに深い傷を負うだけでなく、「性暴力被害者」というレッテルを貼られ、社会生活を営むことが困難になってしまいます。世界の医療団は、2018年にノーベル平和賞を受賞した婦人科医デニムクウェゲ医師の病院で被害にあった女性たちの支援プログラムを続けています。また、コンゴの女性たちの安全な出産をサポートするため、国内の40ヶ所以上の産科施設に医薬品や医療資機材を提供する活動も実施しました。



©MdM Belgium

2022年度の活動



世界の医療団 日本は、日本を含むアジア3ヶ国で医療アクセスの強化を目指すとともに、ウクライナにおける緊急医療支援を支えました。

©MdM Japan

医療相談会(7月、東京・池袋)

ウクライナ

終わりの見えない紛争下で増え続ける支援のニーズ 必要とする人々のもとへ医療を届ける移動診療車は活動の要

2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻。世界の医療団は2015年からウクライナで事業を実施していたため、直ちにチームを緊急支援体制に切り替えました。被害は民間人にも及び、医療施設も攻撃の対象となるなど、非常に困難な状況の中で、医療の提供と物資の輸送を中心に活動を展開しました。移動診療車で地域を巡回して医療サービスを直接届ける活動は、医療施設や道路などのインフラが破壊された場所や移動が困難な人々にとって特にニーズが高く、当初より地域や台数を増やして対応しました。移動診療車には心理士が同乗し、こころのケアも提供しています。また、物流が滞っているため、各地で物資の不足が起きています。医薬品や医療資機材のみならず、おむつや毛布、停電時に使用するための発電機などのニーズもありました。活動は戦闘の最前線に近い場所でも行われており、常に現状の把握とスタッフの安全を確保しながら進めています。



8,381回
医師、看護師による診療

4,954回
心理士による個別相談

117ヶ所
サポートした医療機関

※2022年11月27日現在



移動診療車で女性の血圧を測る
©MdM Greece

ラオス

これまでの経験を活かし、活動地域を拡大 妊娠・出産、新生児期から医療を継続させることを目指して

東南アジアの内陸国ラオス。世界の医療団が活動するのは北部フアバン県の山岳地帯です。活動開始当初のフアムアン郡とソン郡では患者を受け入れる十分な保健・医療体制が整っていませんでしたが、病院の修繕をはじめ、医療従事者への研修、村の人々への啓発活動を通じて地域に根差した医療を築く活動を続けてきました。2022年7月には、これまで蓄積してきたノウハウを活かし、フアバン県の中でさらに活動地域を拡大。新たにサムヌア郡とクアン郡で母子保健を中心に地域の保健を発展させていく活動を始めました。住民の健康促進活動の強化、保健医療従事者の能力・技術の強化、保健行政の運営能力の強化と3者に働きかけることで、母子保健の向上を目指した活動を行っています。また、プライマリヘルスケアアプローチを通して、現地の人々が自らの手で健康を守っていけるよう、現地の人々とともに事業を進めています。また、2022年12月には初めての



赤ちゃんの人形を使って研修を行う様子
©MdM Japan



12月にピエンチャンで開かれたチャリティガラ
©Kazuo Koishi

チャリティガラと写真コンテストを開催。ラオスの会社経営者や政府関係者、医療関係者など88名が参加し、医療から取り残されている人々への重要性を伝え、活動のための資金調達につなげることができました。

4,330人
事業対象者
女性

3,702人
事業対象者
5歳未満の子ども

30村
サポートした村

19,906セット
新型コロナウイルス
感染予防キット配布数

46人
ハウジングファースト型支援により
アパートで暮らし始めた人

102回
リハビリプログラム
(日中活動)開催



バングラデシュ (ロヒンギャ)

2017年8月以降、ミャンマー軍の弾圧を受けたロヒンギャの多くが隣国バングラデシュに逃れ、現在も90万人以上が難民キャンプでの生活を余儀なくされています。世界の医療団は、事態の長期化を見越し、2021年より非感染性疾患予防のための啓発事業を展開してきました。昨年は40歳以上の人々、および非感染性疾患罹患者とそれを支える家族に対象とし、バランスの取れた食事や家の中でもできる運動方法、たばこの健康リスクなどを伝える健康教育を実施。活動は難民キャンプだけでなく、それを受け入れているホストコミュニティにも同時に行いました。また、活動のオーナーシップの観点から、ロヒンギャ難民とホストコミュニティのボランティアをコミュニティ・ヘルス・ワーカーとして育成。彼らが中心となって健康教育を行い、持続発展的な体制づくりを目指しました。



ともに事業を行う
協力団体の事務局長(左)と
プロジェクト・コーディネーターの中嶋(右)
©MdM Japan



ホストコミュニティの人々に
保健衛生の啓発活動をする様子
©Chihito Masuho

不自由の多い難民キャンプ生活の中で、 自らの健康を守るための工夫を日々の習慣に

非感染性疾患に関連した健康教育に
参加した対象者

ロヒンギャ難民キャンプ
19人 **2,068人**
40歳以上の
非感染性疾患罹患患者 40歳以上の
主たる支援者

ホストコミュニティ
220人 **659人**
40歳以上の
非感染性疾患罹患患者 40歳以上の
主たる支援者

コミュニティ・ヘルス・ワーカーの数
12人 **16人**
ロヒンギャ
難民キャンプ ホスト
コミュニティ

ハウジングファースト東京プロジェクト

長引く新型コロナウイルス流行の 影響により相談者が増 医療相談会をきっかけに包括的な支援へ

「住まいは人権である」という考えのもと、東京・池袋周辺でホームレス状態にある人々に、まずは安心できる住まいを提供、そこから医療や福祉につながり、精神状態や生活を安定させ、地域で暮らすことを目指すハウジングファースト東京プロジェクト。新型コロナウイルスの流行の影響により、毎月第2・4土曜日に実施している炊き出し医療・生活相談会の利用者は徐々に増加。2022年、炊き出しは平均483人(2021年平均359人)、医療相談会のはのべ1,602人(同のべ1,425人)が利用し、新型コロナウイルスが生活に与えたインパクトの大きさが数字になって現れました。また、ホームレス状態にある人々の多くは新型コロナウイルスについての情報や感染予防対策へのアクセスが困難であることから、炊き出し医療・生活相談会や夜回りで感染予防キットを配布、心配な症状がある人には医師が対応しました。2021年に2回実施した住民票をもたない人々のためのワクチン接種会ですが、豊島区との連携のもと2022年には3回目と4回目を実現。のべ48人が接種を受けることができました。



6月に実施した3回目のワクチン接種会
©Kazuo Koishi

[証言活動]



世界難民の日に合わせて実施したオンラインイベントにて



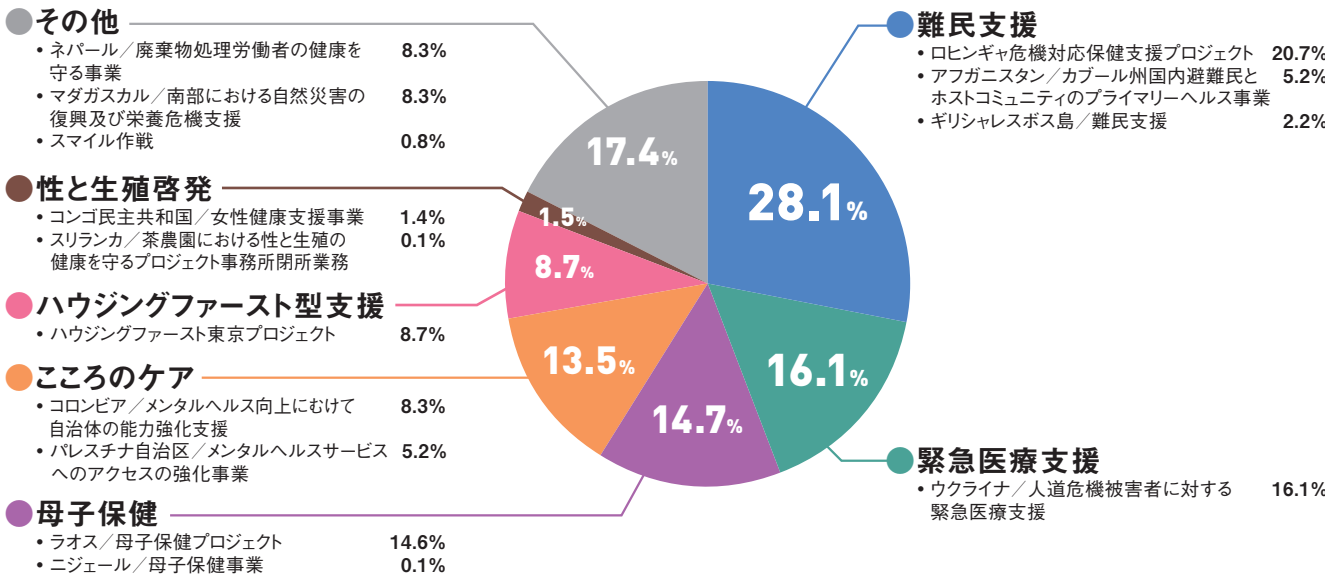
激しい攻撃を受けたあとの首都キーウ郊外

紛争、災害、貧困などで厳しい現実と直面する人々の現状を伝える証言活動。
ウクライナ侵攻開始から約2ヶ月後の4月29日、「ウクライナ人道危機、現地の状況—いま必要な医療を届けるために」と題したウェビナーを開催しました。
現地ウクライナと緊急支援をよく知る世界の医療団のスタッフが、現地の活動について説明。緊迫した活動の様子を伝えました。また、ハウジングファースト東京プロジェクトでは、連携団体とともに東京都や自治体に生活保護申請者への待遇改善や、支援対策について申し入れを行ったほか、意見交換会を実施しました。
2022年は続くコロナ禍の影響により対面形式でのイベント開催が依然として困難であったため、月に1度、オンラインイベントを実施。毎月異なるテーマを設定し、ラオスやロヒンギャ難民支援の拠点など現地スタッフとつないでライブで発信、いきいきとした情報を届けることができました。

●プレスリリース：**33本** ●講演・セミナー：**6回** ●メディア掲載実績：**31件**

主なメディア掲載			
3/8	朝日新聞	論座【62】貧困バンデミックの2年、野戦病院となった支援現場から見た現状と課題 稲葉剛	5/11 ハフポスト 心が苦しくなった時、大きな悲しみや不安を感じた時、私たちができる心のケアとは？
3/11	BuzzFeed	「何もできない」「どうすれば」ニュースを見て、今つらいと感じる人へ。心のケアのためにできること	5/23 時事通信社 Janet 【難民】ロヒンギャの尊厳守れー支援現場からの提言 世界の医療団プロジェクト・コーディネーター 中嶋秀昭
4/9	NHK	ウクライナ支援のNGO 医療資源不足や心のケアの必要性報告	9/20 テラコヤプラス 「世界の医療団」取材！誰もが医療を受けられる未来に向けての活動を聞いた
4/14	朝日新聞	ユニホームでウクライナ支援 ベルマレー、販売収益を寄付上	12/1 TBSラジオ 「荻上チキ・Session」

2022年度に実施した各プロジェクトの費用の内訳

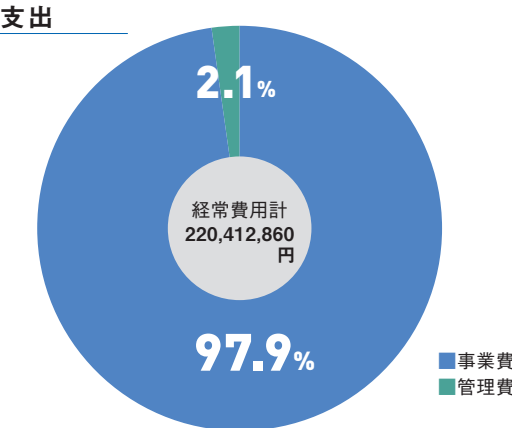
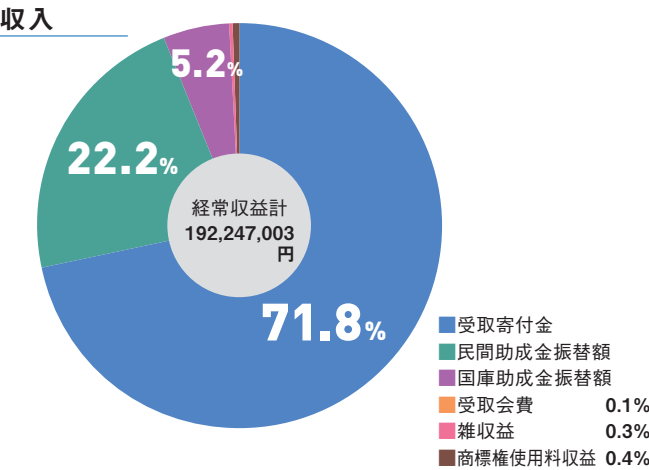


2022年度 [財政報告]

世界の医療団は、1名の監事による会計及び業務の内部監査と、監査法人による会計監査を毎年受けています。
収入面では、世界の医療団を継続して応援してくださるスマイルクラブの会員が増え、スマイルクラブ寄付金は昨年度の111%となりました。支出面では、オンラインを積極的に活用したことにより、支援者の方々をはじめ多くの方々に活動を知っていただく説明会の機会を設けることができた一方、経費は抑えることができました。

正味財産増減計算書 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(単位:円)		(単位:円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
I. 一般正味財産増減の部		(2) 経常費用	
1 経常増減の部		① 事業費	215,837,411
(1) 経常収益		人件費	48,269,802
① 受取寄付金	137,988,677	旅費交通費	2,646,029
キャンペーン寄付金	26,112,473	通信費	1,709,169
スマイルクラブ寄付金	97,145,987	イベント経費	14,472
イベント寄付金	701,921	ミッション経費	117,170,931
その他寄付金	14,028,296	事務用品費	961,033
② 受取補助金等	52,726,191	支払報酬	3,904,200
民間助成金振替額	42,816,303	リース料	303,760
国庫助成金振替額	9,909,888	保険料	709,017
③ 受取会費	215,000	業務委託費	23,077,802
正会員受取会費	215,000	広告宣伝費	1,556,446
④ 雑収益	500,635	支払手数料	7,225,269
受取利息	1,046	地代家賃	6,426,601
雑収益(謝礼・足代・為替差益)	499,589	水道光熱費	293,285
⑤ 商標権使用料収益	816,500	車両費	135,894
商標権使用料収益	816,500	減価償却費	642,303
経常収益計	192,247,003	参加費	172,613



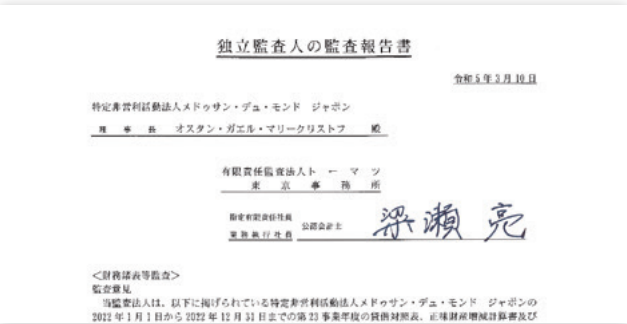
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
前期損益修正益	4,240
経常外収益計	4,240
(2) 経常外費用	
前期損益修正損	43,633
経常外費用計	43,633
当期経常外増減額	△ 39,393
当期一般正味財産増減額	△ 28,205,250
一般正味財産期首残高	156,299,043
一般正味財産期末残高	128,093,793
II. 指定正味財産増減の部	
受取補助金等	54,411,713
一般正味財産への振替額	52,726,191
当期指定正味財産増減額	1,685,522
指定正味財産期首残高	400,000
指定正味財産期末残高	2,085,522
III. 正味財産期末残高	130,179,315

貸借対照表 (2022年12月31日現在)

(単位:円)	
科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	164,988,017
貯蔵品	63,236
未収入金	15,920,151
前払費用	2,001,992
前渡金	38,556,428
立替金	0
仮払金	5,819,484
流動資産合計	227,349,308
2. 固定資産	
(1) 特定資産	
医療支援活動指定積立資産	2,085,522
特定資産合計	2,085,522
(2) その他固定資産	
① 有形固定資産	20,038
建物	1
機械装置	1
車両運搬具	1
什器備品	13,985
一括償却資産	6,050
② 無形固定資産	402,310
ソフトウェア	402,310
③ 投資その他の資産	642,000
敷金	642,000
長期前払費用	0
その他固定資産合計	1,064,348
固定資産合計	3,149,870
資産合計	230,499,178

(単位:円)	
科 目	金 額
II. 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	28,292,342
未払費用	7,664,012
前受金	63,272,395
預り金	993,491
仮受金	27,623
未払住民税	70,000
流動負債合計	100,319,863
負債合計	100,319,863
III. 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
民間助成金	2,085,522
指定正味財産合計	2,085,522
(うち基本財産への充当額)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(2,085,522)
2. 一般正味財産	128,093,793
(うち基本財産への充当額)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)
正味財産合計	130,179,315
負債及び正味財産合計	230,499,178

独立監査人の監査報告書 (抜粋)



支援してくださる人びと

◆寄付者 **5,543人** (法人85団体)
うちマンスリーサポーター **4,033人**
うち会員 **6人**
◆ボランティア **XX人**

◆Facebookフォロワー数 **4,700人** (9%ノ※)
◆Twitterフォロワー数 **5,916人** (7%ノ※)
◆Instagramフォロワー数 **803人** (17%ノ※)

※前年同月比 2022年12月末現在

●支援者からのメッセージ

私の今の状況では、寄付での
関わり方しかできません。現地
で活躍されている方々を応援
しています。お身体を大切に、
無理せずに、安全に。

世界の医療団の活動がもっと世間に
知られば応援する方も増えると思
います。今がその時ですね。寄付をどこに
したらよいか、きっかけがないけれどし
た方はたくさんいると思います。

難民支援の話をお聞きし、
少しでも支援できたらと思いま
した。日本にいと、なんと平和
なのか、もっと世界に関心を
持たなければと思いました。

ご協力いただいた企業・団体

2022年度にご支援をいただきましたすべての法人・企業のみなさまに対し、改めましてお礼申し上げます。

◆パートナー(五十音順・敬称略)

会津オリンパス(株)／青森オリンパス(株)／アニエスベージャパン(株)／アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド／
いちよし証券(株)／(公財)岩佐教育文化財団／(公財)ウェスレー財団／(株)エイベックスインターナショナル／エーツーケア(株)／
エドワーズライフサイエンス(株)／(株)大塚商会／オリンパス(株)／(有)画廊アートエミュウ／(株)クニエ／(株)グリーティングライフ／
KUROFUNE&PARTNERS(株)／(一財)ザ・ブラフ・クリニック／ジェイレックスコーポレーション(株)／(医)秀峰会／小豆島ヘルシーランド(株)／
(株)湘南ベルマーレ／住信SBIネット銀行(株)／ソフトバンク(株)／NIKOLA TESLA.K.K／(一財)日本寄付財団／(株)バリューブックス／
フレンチブルミーティング実行委員会／三菱UFJ信託銀行(株)／(公財)森村豊明会／ヤフー(株)／楽天銀行(株)／リンベル(株)／
連合愛のキャンパ／(株)ワールドモータースグループ
※紙面の都合上、金額・継続期間等の基準による抜粋とさせていただきます。

〈物品サービス〉 エクスコムグローバル(株)
〈イベント協力〉 コングラント(株)／清泉女子大学／戸室玄
〈プロボノ〉 小石和男／小林意匠研究所／斎藤順子／デロイトトーマツ コンサルティング(株)／東京西法律事務所／
長島・大野・常松 法律事務所／ペカー&マッケンジー法律事務所／ホワイト&ケース法律事務所／水野貴仁

法人パートナー募集

世界の医療団はさまざまな法人・企業と連携して世界各地に医療を届けています。
寄付金による支援のほか、コラボ商品による寄付、物品の提供、プロボノなど、多様な協働の方法があります。
お問い合わせ：電話03-3585-6436 E-mail info@mdm.or.jp

寄付のご案内

世界の医療団は「認定NPO法人」として東京都より認定されています。世界の医療団へのご寄付は
税制上の優遇措置(寄付控除等)を受けることができます。領収書は年間一括で1月下旬に発送します。

毎月の寄付(スマイルクラブ)

継続したご支援により、紛争や自然災害など
緊急時でも迅速な対応が可能になります。

ホームページからのお申し込み(クレジットカード利用)▶



単発の寄付

いつでもいくらでも、
お気持ちに合わせて寄付できます。

ホームページからのお申し込み(クレジットカード利用)▶



郵便振込
による寄付

上記ホームページでのクレジットカード決済以外に、郵便局からお振込みもできます。
郵便振替口座番号：00110-8-172839
郵便振替口座名：特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン
※通信欄に寄付者の方のお名前、ご住所等ご連絡先を必ずご記入ください

遺贈・相続財産・お香典からの寄付

詳細資料をお送りします。事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ・資料請求 電話 03-3585-6436 E-mail: leg@mdm.or.jp

◆その他にもさまざまな寄付を受け付けています。詳しくはホームページをご覧ください。



世界の医療団と
SDGs (持続可能な開発目標)

世界の医療団の活動は、SDGsが目指す
「誰一人取り残さない(leave no one behind)」
社会の実現に貢献しています。

